

平成28年 9月 13日

浜田市議会議長 西田清久様

総務文教委員会

委員長 岡本 正友



総務文教委員会行政視察報告書

下記のとおり、視察を行いましたので、その結果を報告いたします。

記

1. 期間 平成28年 8月18日(木)～8月19日(金)

2. 視察先と調査項目

(1) 千葉県 野田市

①土曜授業について

説明者 野田市教育委員会 桑原 辰夫 次長 瀬戸 好男 指導主事

間々田英示 指導主事

(2) 東京都 新宿区四谷4-20

①東京おもちゃ美術館について

説明者 NPO法人 日本グッド・トイ委員会

チーフディレクター 橘高 春生 氏

3. 参加者 10名 総務文教委員会・議長

①岡本 正友 委員長 ②上野 茂 副委員長

③岡野 克俊委員 ④野藤 薫委員 ⑤芦谷 英夫委員 ⑥田畑 敬二委員

⑦佐々木 豊治委員 ⑧江角 敏和委員 ⑨西田 清久 議長

⑩随行 篠原 修 議会事務局議事係長

①土曜授業について（千葉県野田市）

【千葉県 野田市】

1. 町の概要

野田市は千葉県の最北端、関東平野のほぼ中心に位置し、東京都心部まで30km、県都千葉市まで45kmの距離に有ります。

利根川、江戸川、利根運河と三方を河川に囲まれ水と緑に恵まれた地域となっています。

古くは水の恵みを活用し、江戸への玄関口として水の関所が有り、関宿藩の城下町として、南部は醤油醸造業を中心に、文化と歴史豊かに発展しました。近年は都市化が進み、住宅都市として隣接する春日部市など隣接する埼玉県域との結びつきが強くなっています。

農業では玄米黒酢農法を導入した野田産米のブランド化を目指しています。又、労働者の適正な労働条件の確保により、工事や業務の質の確保、及び公契約の社会的な価値の向上を図り、市民が豊かで安心して暮らせる地域社会の実現を目的に、公契約条例を制定しています。

東京へ直結する「地下鉄8号線」が野田市まで延伸する事が位置づけられた事により、人口増加、経済活動の進展と活力を生み出す都市基盤整備や少子高齢化社会に対応する環境整備など様々な施策を積極的に進めています。

野田市の人口は、155,134人で、世帯数は、65,405世帯です。
(平成28年4月1日)

2. 議会の概要（申し合わせ任期2年）

議員定数	条例定数：28人 現員28人
議員任期	～平成29年 5月
正副議長	議長：中村 利久 副議長：内田 陽一
議会運営委員会	10人以内
常任委員会	総務7人・環境経済7人、文教福祉7人、建設7人
特別委員会	予算、決算時に設置。

3. 視察内容

8月18日13:00～15:00

(説明者：野田市教育委員会：学校教育課)

(対応、挨拶：野田市議会事務局長 砥部 様)

野田市議会 第二委員会室にて砥部事務局長より挨拶を受け、
教育委員会 指導課 間々田氏より視察内容の説明を受ける。

① 土曜授業について

浜田市では2年前より、教育委員会で中央図書館において、土曜学習を開始した。これは学校現場において、二極化した子供たちの学習状況の底上げや理解度を上げる事を主目的に教育環境の充実を図る一環で行っている。

この事業や、退職教員や大学生、地域ボランティアが学校現場に赴き放課後の、学習補助の事業も行っている。

しかし、参加者数の伸び悩みなどの課題が有り、法改正を受けて付き2回土曜日に、正規の授業を行っている野田市の教育状況を視察した。

(背景)

野田市では、平成14年度、学校完全週5日制と学習指導要領の改訂による学習内容の不足による学力低下を防ぐため、教育環境整備事業として「少人数授業等講師の配置」「市独自の副教本作成(算数数学、理科)」「サタデースクール事業(学習)、オープンサタデークラブ事業(スポーツ)」「二学期制の導入(平成16年度)」を開始。

平成17年度、東京理科大学とパートナーシップ協定(キャリア教育実践プロジェクト事業)を締結。

平成20年度、学校支援地域本部事業を開始(中学校区に地域本部)各地域本部にコーディネーターを配置。

しかし平成25年の全国学力学習状況調査において、地域格差・上位層と下位層の二極化の結果が有り、平成25年11月の学校教育法施行規則の一部改正を受けて、平成26年度からの土曜授業の検討に入った。

(内容)

10年間サタデースクールを実施した事により、土曜日には地域人材が学校に集まる。

また、学校支援地域本部事業や、東京理科大とのパートナー、地域との協力関係が有ると言う事で、取組みやすかった。

地域、PTA、一般教員への説明会を実施、準備段階での課題を解決していった。

【職員の服務に関する課題】

○学校職員の勤務時間規則の変更（県教委）

○市の公立学校の休業日の変更（市教委）

○夏季休業中の機械警備の実施（負担の軽減）

そのほか教育課程の工夫や、各種大会、社会体育、関連団体などの関係なども改善していった。

土曜日の登下校時の、見守りなどの安全への配慮も地域に協力して頂いた。

【目的】

○二極化の是正

○児童生徒と向き合う時間の確保。

○規則正しい学校生活による生活改善に資する。

【成果と課題】

○成果として ①小中とも習熟度別学習、少人数授業、NIE学習により、学習到達度調査の結果が上昇した。②漢字検定の受験者の増加や国語の記述式設問の無回答者の減少。

○課題は ①学力上位層の子供達への支援や特別支援学級の子供たちへの支援。数値化した成果の検証。②児童生徒、教職員の負担感の継続した軽減。

③土曜授業アシスタントの指導力向上などである。



【質疑応答】

Q：二学期制について

A：平成16年度から土曜授業に先行して実施している。

Q：教育課程における土曜授業の授業時数との関係は？

A：文科省の教育課程に純増の部分だと思う。

Q：教職員は県費負担だが、ご苦労が有ったと思う他市ではどうか？

A：千葉県の近隣5市では取り組みが無い。新学習指導要領で小学校英語科で28コマ増える。土曜授業で実施する自治体が増えるのではと思う。

Q：土曜日の削減で、反対などどのような意見が有ったのか？

A：PTAでの意見は、子供とのふれあい、通院、スポーツクラブ等、他市の子供達と違う事への意見だ。親世代は週6日制なので、おおむね賛成、ただし学力向上への成果が無ければ、批判が出ると思う。

Q：土曜日アシスタントに係る経費（人件費）が1,5倍になっているが？

A：地域の塾の単価に併せたのでこの様になった。



Q：実施にあたっての課題は？

A：人的支援の解決により校長会は前向きになった。校長のリーダーシップがキーになる。

Q：成果については？

A：校長のリーダーシップにより土曜授業の内容も変わる。

Q：現場の教職員の想いはどうなのか？

A：教師は授業準備など目の前の子供達の為に頑張る。

Q：学力と自然に親しむ取組みなどはどの様になっているのか？

A：土曜だけでなく、普段の授業の中で十分取入れている。

Q：他市と違う勤務形態に対し、教職員の実情は？

A：事務所管内は野田市を含め6市、優秀な先生方を人事交流（計画交流で3

年) している。

Q：土曜アシストの指導法は？

A：子供に考えさせる研修をしている。

Q：地域人材はどのような方か？

A：サタデースクール経験者71名、大学生57名、元教員37名です。

Q：土曜授業に係る人数、予算は

A：サポートティーチャー53名、雇用している。全体で約1億の予算です。

【まとめ】

浜田市は土曜学習を実施しているが、なかなか成果が見えない。学力については家庭学習での問題があるとマスコミ報道があった。

一朝一夕に解決できる問題ではないが、全国で実施が有る土曜授業について、県教委との協議、浜田市の教育委員会の前向きな取組が求められる。

教職員の協力も不可欠だ。

現在の土曜学習の検証もして、一つでも取り入れる事が出来るように願う。



東京おもちゃ美術館行政視察報告

○期 日 平成28年8月19日（金）午前10時～11時30分

○視察先 東京おもちゃ美術館（四谷）

日本グッド・トイ委員会チーフディレクター 橘 高 春 生

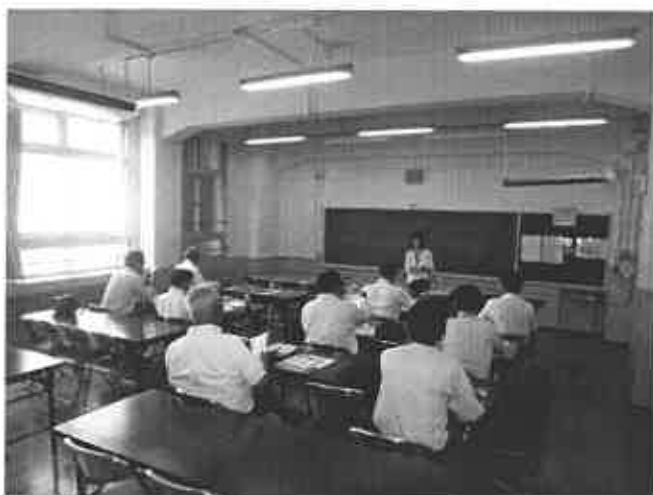


○概 要

- ①この美術館は旧四谷第4小学校の廃校舎を利用しているもので、NPO法人日本グッド・トイ委員会が運営しており、10の展示室がある。
- ②1984年に日本グッド・トイ委員会として設立され、東京都中野区において「おもちゃ美術館」を開館し、2003年NPO法人の認証を受け、2008年現地四谷に移転し「東京おもちゃ美術館」として開館している。
- ③会員は1800名、役員は理事13名、監事2名で、有給スタッフ数は常勤8名、非常勤7名で、事業規模（09年度決算収入）は約8200万円（内訳：会費・入会金約600万円、事業収入6700万円、助成金等100万円、寄付金約700万円、雑収入など）となっている。
- ④活動の目的や趣旨として、乳幼児から高齢者まですべての人々に対し、おもちゃ選びの目安とすべく「グッド・トイ」の選定とおもちゃ文化・遊び文化の研究・啓蒙を進め、おもちゃ文化・遊び文化の向上を掲げている。
- ⑤具体的には、空間構築支援～遊びの空間をデザインする、多世代交流支援～おもちゃ美術館運営、おもちゃ遊び支援～グッド・トイ選定活動、木育推進支援～ウッドスタート活動、人材育成支援～さまざまな資格認定制度、地域遊び支援～移動型おもちゃ美術館、子育て支援～おもちゃの広場の管理運営、病児の遊び支援～小児病棟での遊びボランティア、国際交流支援～おもちゃ文化の海外交流、高齢者福祉支援～アクティビティおもちゃなど10の事業を行っている。

⑥この校舎は昭和10年に建てられ、火災に遭い全焼し地域から寄付募ったところ木造校舎2つ分の寄付が集まったことから、ドイツ人の設計により鉄筋コンクリート建てとなり、その後廃校となったあと、東京おもちゃ美術館として生まれ変わったものである。

⑦ゲームのへや、おもちゃこうぼう、おもちゃのもり、きかくてんじしつ、木育ひろば、など10の旧教室を使った展示などがあり、昔のおもちゃや遊び、外国の人形、木を使った遊び空間などがあり、登録されたボランティアスタッフ300人のうち、毎日10人前後が手伝っている。



○所 見

①廃校を利用したこと、「あそぶ」「つくる」「であう」をテーマとし、子ども自然の中での成長、地域に開かれた施設、地域との連携と交流、人材育の育成、中高年の社会貢献、木育などなどのキーワードが読み取れ、新たな発想で事業を展開しており参考とすべきである。

②おもちゃインストラクター、おもちゃコンサルタント、おもちゃ学芸員などの養成など人材の育成と発掘に取り組んでおり、このうちおもちゃ学芸員はおもちゃ美術館の運営ボランティアとして参画しており、注目すべき取り組みである。

③地域材を活用した子育て子育て環境を整備し、人が木の温もりを感じ楽しく豊かに暮らす取り組み、ウッドスタート事業を行っており、広葉樹の豊富な中国山地を抱える浜田市としても参考とすべき取り組みである。

○その他

①東京おもちゃ美術館近くにある、消防博物館を見学したが、ここでは江戸時代からの消防の歴史や、消防自動車の変遷、世界の消防車などの展示をしている。屋外には消防ヘリコプターがあり、操縦席に乗ることができ、映像室では、東京消防庁オリジナルの映画が上映されている。

